



最後に、三重大大学の織田泰幸先生から「コミュニティスクールにおける保護者・地域社会の役割」と題して、20分程度の講話がありました。大変おもしろかったので一部紹介させていただきます。

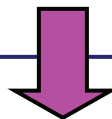
2011年12月31日の大晦日に、オウム真理教の元幹部である平田信が、警視庁本部に出頭して来ました。その時、警備にあっていた機動隊員は、本人ではないと思い取り合わず、近くの交番に行くよう指示し、平田容疑者は、650mも離れた丸の内署に出向いて、やっと御用になったというおそまつな事件です。

これを聞いてあなたはどう思いましたか？という問いです。インターネットの書き込みでは、「職務怠慢だ。」「警官は無能すぎる。」「立っただけで給料もらえるのか。」「こんな調子だから17年も逃亡させた。」「機動隊員を処分すべきだ。」というような意見が圧倒的でしたが、出席した皆さんも、ほぼ同様の意見でしたね。



織田先生から、そこで勤めた経験のある警視庁捜査官の見解が紹介されます。

- ・ 警視庁本部の正門は、皇居に接しており、他の警戒ポイントとは異質である。
- ・ 妄想や妄想癖のある人がよく来る場所として有名である。
- ・ 昼間は、「内閣秘密調査室」と鉛筆で書いた名刺を示して本部に入ろうとする老人、「秘密の話だから警視総監じゃないとだめなのよ。」と言って警戒を突破しようとする謎の女性、外周では、罰ゲームなのか、度胸だめしなのか、皇居のお堀に飛び込んで一旗あげようとする男、「陛下のお具合が、よろしくないのは江戸城の亡霊武者の仕業だから除霊に来ました。」というエクソシストの家族など。
- ・ 夜になれば、さらに凄くなり、「寝ているうちにソ連のスパイに頭にオシロスコープを埋め込まれた。」という自称スパイ工作被害者、「私は、皇太子殿下の秘密の花嫁です。」というシンデレラ、「霊安室に安置されている松本さんに呼ばれてきました。」といった幽霊より怖い男性等、多い日は一日に3～4人もやって来ます。
- ・ そんな警視庁本部に前に、大晦日の深夜に「オウムの平田です。」なんて男が現れても、起動隊だって本気にしなかったのでしょうね。



この話の教訓

- 現場の実情を知らない人は、ある組織の失態に対して、無責任な立場から、好き勝手な批判をすることができる。
- 現場の実情を知っている人は、ある組織の失態に対して、リアリティのある意見を言うことができる。
- 近年の学校に対する批判も同じではないか。コミュニティスクールは、地域社会の人が学校という現場の実情をよく知ること、これからの学校づくりのための建設的な関係を築くための制度である。



最後に、織田先生が、学校と地域の望ましい関係として示された言葉です。

- ① 子どもの成長は、親と子の「縦の関係」、学校における先生と生徒の「横の関係」だけでなく、「斜めの関係」（地域の人、卒業生など異質な大人との交流）の世界で生まれる。
- ② 学校、家庭、地域が共に子どものために汗を流そうという当事者意識が実を結ぶ。
- ③ 「いい学校」は、「いい地域」に生まれる。「いい学校」を作ろうと、皆で一緒に汗をかくことで、「いい地域」が生まれる。